

レーザーで角膜矯正

近視、遠視に効果

痛みなく手術は1分

城田眼科
都宮

近視などの屈折異常や角膜の白濁除去がわずか1分前後で、しかも無痛で済む画期的な手術が都城市蔵原

町の宮田眼科病院（宮田典男院長）で行われている。近視、遠視、乱視の従来

の手術は角膜をメスで切開し眼球の表面の形を変えて焦点を矯正する方法が一般的。しかし、光の乱反射な

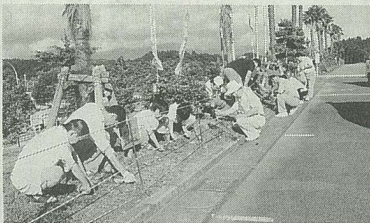
り完治しないなどの問題点があった。これに対して、同病院が米国から導入したエキシマレーザーによる手術はレーザー光線で角膜を削って矯正。患者のデータをコンピュータに入力するとレーザーの照射時間や深度などを瞬時に解析する。麻酔は目薬だけ。手術時間は1分前後で当日帰宅できる。手術は一回で終わる。近視の場合、視力は一週間から一カ月で回復し0.1以下が1.0以上になることも多いという。同病院では四月から現在まで約三十例行っているが「ほとんどの症例で良好な結果が得ら



宮田眼科病院で行われている画期的な角膜屈折異常の手術

町の花ヒガンバナ育て

野尻 住民ら球根3000個植栽



ヒガンバナの植栽作業を行う参加者

れている。しかし、どんな手術にも合併症があるので適応は十分に選ばねばならない」と宮田和典副院長。日本国内でのエキシマレーザーは治療用が四月に認可され近視用は現在、審査中である。そのため眼科の

領域では世界の先端を行く、とされる米国で認可を得た機械を輸入しているのが現状だ。また保険が適用されないことから近視（片方）の手術が東京などでは約二十五〜三十万円必要。宮田眼科病院では極力抑える。

る方針。宮田副院長は角膜の専門医で東大講師時代の一九九〇年から矯正手術を手掛け、九二、九三年には米国および欧州白内障屈折矯正手術学会で表彰されている。

野尻町観光協会はこのほど、同町東麓の国道268号沿いにヒガンバナの球根を植えた。同国道は路線拡

張や歩道整備など改良工事が進められ、街路灯の設置や花木植栽スペースが整備されたことから町の花である。同町でも白ヒガンバナは珍しいといわれ、参加者は秋の開花を心待ちにしている。

るヒガンバナを植え、花の町としてイメージアップを図ろうと行った。植栽した球根は約三千個。長崎県野母崎町在住の熊健さんが三十年以上前から育て、増やしてきた白い花を付ける珍しい野生種という。今回、無償で提供した。植栽作業には同協会の呼び掛けで町民ら七十五人が参加。約七百個にわたる歩道の植栽スペースに植えたほか、一部は同町の観光施設「のじりこびあ」にも植えた。同町でも白ヒガン